

ほごしゃ みなさま  
保護者の皆様



# Mステからのおたより

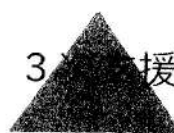


これまで勉強や行事でがんばっている児童の姿がたくさん見ることができました。どんなことにもやる気をもって取り組んでいます。しかしその反面「授業が難しい」「人がたくさんいて落ち着かない」「みんなの前で話すのは苦手だな」と感じる児童も少なくありません。「くじけないでがんばろう!」と励ますことも大切ですが「大変だよね」「苦手なこともあるよね」「少し休んでもいいよ」と気持ちに寄り添い、共感することときには必要だと考えています。それぞれが持っている力はそれぞれ違っており、それに伴ってそれぞれの目標も変わってきます。一つ一つの活動の中でその子にとって何がゴールなのか、何がでるようになると大きな成長を実感できるのかという子どもの見取りを大切にしたいです。

これからも学校では様々な行事が行われます。それぞれの個性が活かされる活動にしていきます。

今回は学校で取り組む学習支援についてご紹介します。学習に困っている児童に対する支援は3段階で考えます。

## 支援の段階



2次支援の指導でも伸びが難しい子どもに対して集中的・柔軟的な指導

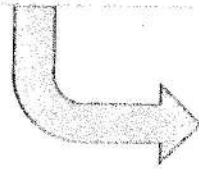
1次支援で伸びが十分ではない子どもに行う補足的指導

2次支援



1次支援

すべての子どもを対象に質の高い指導



### ① 1次支援

「聞くことが苦手」「書くことが苦手」「話すことが苦手」などと感じている児童でも苦手を補う手立てをうけることで一斉授業に参加できる支援のことを言います。教材を工夫したり、ワークシートを作成したり、視覚的情報を提供したりすることが挙げられます。《合理的配慮》とも言われています。

### ② 2次支援

授業者とは別にもう一人補助教員が教室に入り、授業者の説明や問題文の補足をします。授業以外の時間(休み時間 放課後など)の補習も2次支援に含まれます。

### ③ 3次支援

国語や算数など苦手を感じる授業の時間、個別指導教室(Mステ)で指導者1人につき、児童2~3人で少人数指導を行います。その児童のペースで学習を進めることができます。「教室での授業がわかるようになった!」という児童の姿を目指しています。また、発達面で課題が見られる場合には検査、個別支援を受けることができる他機関をご紹介します。